

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2012.09) 平成22年度:139.

がん医療に携わる看護師におけるバーンアウトに関する文献レビュー

小倉笑子

# がん医療に携わる看護師におけるバーンアウトに関する文献レビュー

旭川医科大学病院看護部 小倉 笑子

## 目的：

看護師のバーンアウトのリスク要因、予防戦略、対処に関するエビデンスを集積しスタッフケアの方向性を言及する。

## 方法：

文献レビューによる記述的研究。情報源は医中誌、PubMed とし、用語は(バーンアウト)(がん)(burnout)(oncology nursing)を用いた。入手可能な 17 文献を分析した。

## 結果：

リスク要因は個人要因(未婚、希望でない配置、年齢、15年以上の経験、コーピング行動)、集団要因(医師や他職種、患者・家族、同僚との関係)、組織要因(過重労働、仕事に関連した悲嘆)、社会や文化(看護師の仕事への意味づけ、ケアの哲学など)であった。看護師は医師よりも Maslach Burnout Inventory (MBI) で情緒的消

耗要因が高くみられた。予防戦略は同僚との良好な人間関係、コミュニケーションやコーピングの能力向上の教育プログラムへの参加、Fish! 理論を用いた楽しい職場作り、同僚間での悲嘆ケアなどであった。対処としては周囲の人間が回復(①問題を認める、②仕事から距離をとる、③健康を回復する、④価値観を問い直す、⑤働きの場を探す、⑥断ち切り、変化する、6段階を辿る)を支援すること、ツボを刺激する感情解放テクニック(EFT)、上半身の臨床動作法などがあった。

## 考察：

MBIで医師は個人達成感が低いが、看護師は情緒的消耗が高い(Alacacioglu,2009;Bressi,2008)という特徴があり、看護師は情緒的消耗回避を特に強化しバーンアウトのリスク要因や予防戦略で日頃から良好な精神状態を保つためのセルフケアが重要である。